

# Keiba Global Front Line



## 競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介致します

合田直弘

欧洲マイル路線に出現した超新星バーノン・シャン賞(芝1600㍍)を制し、デビューから無敗の5連勝を果たすとともにG1初制覇を飾ったのが、ユーマーケットを拠点とするウイリアム・ハガス調教師が管理するバーイードだ。

トウームが築き上げた競馬組織「シャドウエル」である。殿下の逝去から3カ月後、の6月末、シャドウエルは、殿下の令嬢であるシェイカ・ヒッサが後継者となつて運営されていくことが、公式に発表されてい

ハムダン殿下の所有馬として仏国で走り、LRリアンクール賞(芝2000m)を含む2勝をあげたアガリードの5番仔となるのがバーヴードだ。その母アガリードのみならず、G1BCファイリー&メアターフ(芝11F)など2つのG1を制した祖母ラフドウード、3代母ラーヴィーブ、4代母バシェイヤーは、いずれもハムダン殿下の自家生産馬だから、極めて純度の高いシャドウエル血統と言えよう。

さらに5代母は、エリザベス女王が生産し所有したハイトオヴファッショングだか

歐州マイル路線に出現した超新星バ  
ーリード（牡3、父シーザスターク）が、  
今月のこのコラムの主役である。9月5日

ら、日本が産んだ不世出の名馬ディープインパクトとも縁戚関係にあたるという、超名門ファミリーを背景としている。

バーイードの1歳年上の全兄にあたるのが、現役馬として活躍中のフカム（牡1歳父シーザスターズ）だ。3歳時・4歳時と

2年連続で「ヨーバリリー」のG3エフリーフリアS(芝13F 61Y)に優勝している他、4歳7月にはヨークのG3シルヴァーアーク(芝13F 1:08.8Y)に制しているのがフカムラで、すなわち、12F<sup>ア</sup>の路線で3重賞を制している馬の全弟にあたるのがバーリードなのだが兄とは全くキヤラククアードの一の異なる競走馬に育つのだから、血統とは不思議なものである。

デビューしたのは今年6月で、レスターで行われた芝8Fのメイドンに出走。スタートダッシュの鈍かつたバーイードは14頭立ての11番手を追走した後、残り2Fから末脚を炸裂させて差し切り、デビュー勝ちを飾った。

ハガス師がバーティードの2戦目に選択したのが、二ユーマーケットを舞台とした、初戦と同じ距離8Fの条件戦で、バーティードは、も7.1/2馬身差で快勝。どうやら、この距離が合うようだということになつた。バーティードは、二ユーマーケットのレコードは、サヘルンリーセシルS(芝8F)に駒を准

め、ここも4馬身差で楽勝して3連勝。繰り

トヨには、3つのG1を含めて今季4戦4勝という古馬最強マイラーで、そこがおそらくは現役最後の一戦となるパレスピーア（牡4）も登録している。

パレスピーア VS バーヴードは、実現すれば世界が注目する、至高の戦いになりそうだ。

（）も1・1/4馬身差で制し、G1勝ち馬の称号を得たバーイードの、次なる目標となるのが、10月16日にアスコットで行われる、欧洲マイル戦線のクライマックスとなるG1クライエンエリザベス2世S（芝8F）だ。

（）には、3つのG1を含めて今季4戦4勝という古馬最強マイラーで、そこがおそらくは現役最後の一戦となるパレスピーア（牡4）も登録している。

パレスピーア vs バーイードは、実現すれば世界が注目する、至高の戦いになりそうだ。

なりのまま残り300mで先頭に立つと、そこから後続を6.1/2馬身差引き放して快勝。無敗の4連勝を飾ることも、重賞初制覇を果たすことになった。

そのバーイードが、G1ファルマスS(芝8F)勝ち馬で、前走G1サセツクスS(芝8F)が3着だったスノウランタン(牡3)、昨秋のG1BCマイル(芝8F)勝ち馬で、前走G1ジャックルマロワ賞(芝1600m)が3着だったオーダー・オ・ヴァーストラリア(牡4)など、マイル路線の一線級と初めて顔を合わせたのが、9月5日のG1ムーランドロンシャン賞だった。

こも1.1/4馬身差で制し、G1勝ち馬の称号を得たバーイードの、次なる目標となるのが、10月16日にアスコットで行われる、欧洲マイル戦線のクライマックスとなるG1ケイーンエリザベス2世S(芝8F)だ。

こには、3つのG1を含めて今季4戦4勝という古馬最強マイラーで、そこがおそらくは現役最後の一戦となるパレスピーア(牡4)も登録している。

パレスピーア vs バーイードは、実現すれば世界が注目する、至高の戦いになりそうだ。